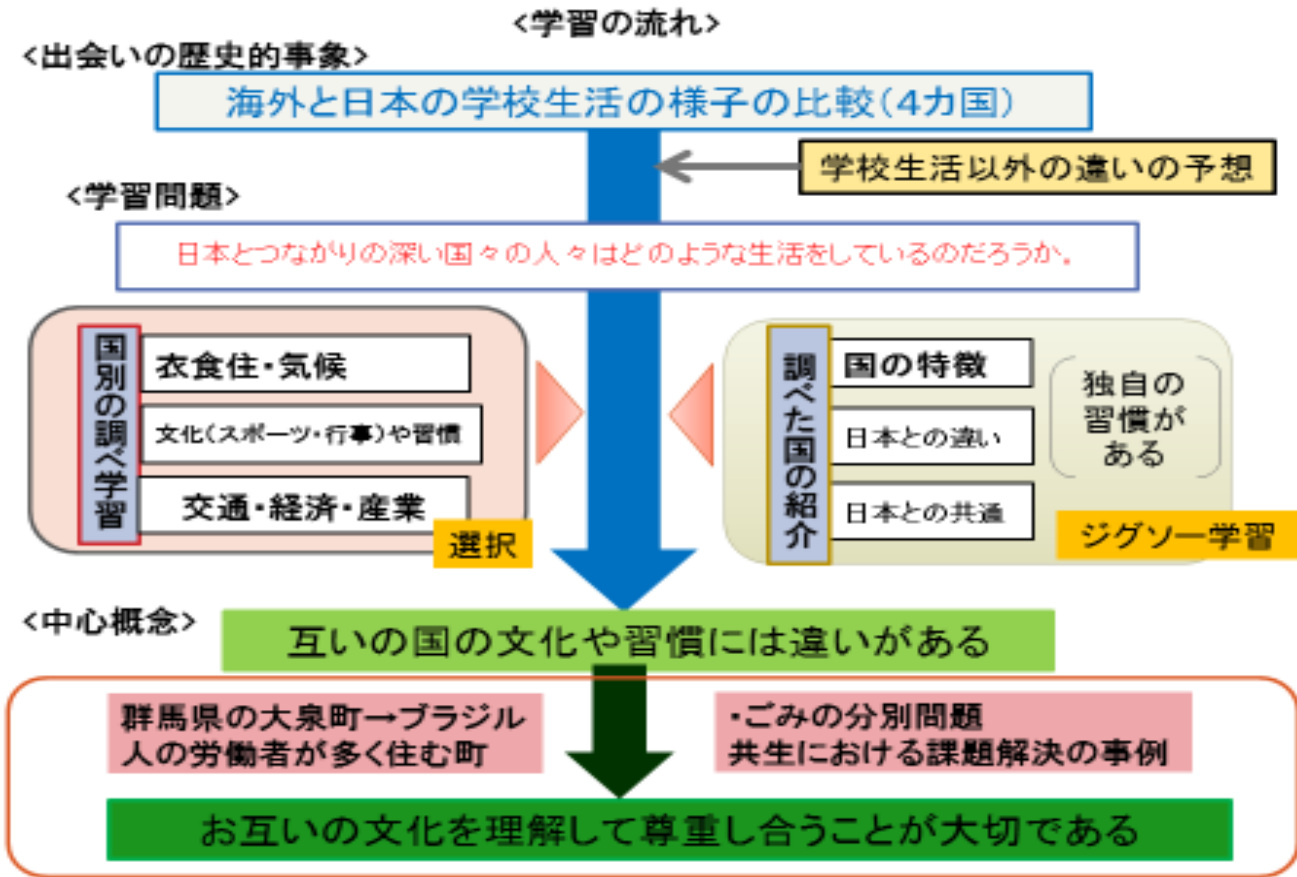



実践テーマ「よりよい社会をつくる子供の育成」 ～日本とつながりの深い国々の実践を通して～




アメリカ



小学校が6年間、中学校が2年間、高校が4年間が一般的です。この期間が義務教育です。生徒たちは、自宅から通学バスに乗って、または家族に車で送り迎えをもらって通学しています。2階建ての校舎は横に長く、広々としていて、校舎の中へ入ると、教室やロッカーは生徒たちの描いた絵や作品で飾られています。

中国



中国の学校は、小学校が6年、初級中学が3年(中学校にあたる)、高級中学が3年(高校にあたる)に分かれており、小学と初級中学の9年間が義務教育です。中国の学校は9月入学の2学期制で、1～2月(春節期間)に約4週間の冬休み、7～8月に約7週間の夏休みがあります。北京市の学校では、パソコン画面を写す電子黒板が使われている。

サウジアラビア



サウジアラビアでは多くの場合、小学校が6年間、中学校が3年間、高校が3年間が同じ敷地にあり、そのため一口に学校と言っても幅広い年齢の生徒、また多くの先生が在籍しています。校舎が男子部と女子部に分かれています。

ブラジル

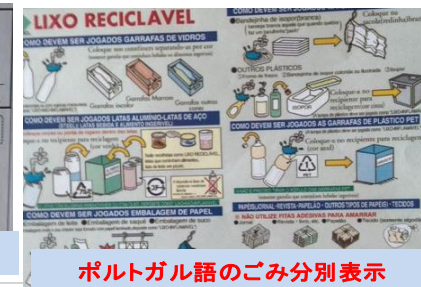


ブラジルの教育制度は、基礎教育9年(小学校・中学校)、中等教育3年(高校)となっています。授業は平日の半日のみで、生徒によって午前部(7時半～12時頃)と午後部(13時半～18時頃)のいずれかを選択します。

大泉町 ごみの分別問題に対して行なったこと

①日本人側が行なったこと

大泉町役場の人たちは、ブラジル人には日本人と違ったごみ分別習慣があること、日本語が分からず困っていることを理解し、課題解決の取組を行いました。ポルトガル語のごみ分別の表示や大泉町の情報誌(ガラッパ)をつくったり、文化の通訳制度を行い日本の生活習慣を知ってもらいました。文化の通訳制度とは、日本人が講師になり、ブラジル人に日本の文化を伝える制度です。例えば「日本料理の基そとごみの分別」などの講座を開いています。



②ブラジル人側が行なったこと

大泉町に住むブラジル人の取り組み
(日系ブラジル人 宮崎マルコ・アントニオさんの話)



ブラジル人は大泉町が出す情報誌などから日本の生活習慣や文化を理解し、ブラジル人もごみの分別方法を守るようになりました。言葉の分からないブラジル人にとってごみの分別法を理解することは大変です。大泉町が出しているガラッパなどはとても助かります。私たちは日本語を学び、日本の文化を理解し、積極的に大泉町の社会の一員として協力して生活しています。今では、ブラジル人と大泉町の人たちで清掃ボランティアの活動を行っています。清掃活動以外にも東日本大震災の時も、大泉町の人たちと協力して炊き出しを行ったり、毎年、地元の中学生の職場体験を自分の経営しているレストランで行い、ブラジルの文化を知ってもらったりしています。



資料を加工することで、調べる時間を短縮させることができます。教材を開発し、資料をどのように作成したらよいか迷った場合は、参考にしてみてください。この2つの資料は、導入で活用した「学校生活の様子」、心かめる段階で活用した資料です。どうぞ、活用してみてください。